



科目	国語科教育
対象	国語教育サブプログラム

試験区分				
特別選抜	外国人留学生等選抜	派遣教員選抜	現職教員選抜	一般選抜
×	○	×	○	○

受験番号						

問二

次の国語科の基礎内容および国語科教育に関する語句ア～トの中から五つ選び、選択した記号を記し、それぞれ百字程度で説明せよ。

- |        |                    |        |         |
|--------|--------------------|--------|---------|
| ア 平仄   | イ 言葉によるもの見方・考え方    | ウ 抄物   | エ 古事記   |
| オ 接辞   | カ 日本近代における言文一致     | キ 方丈記  | ク 大村はま  |
| ケ 伊勢物語 | コ 近代文学史における「大家の復活」 | サ 宣命書  | シ 楽府    |
| ス 論理国語 | セ 近現代詩のレトリック       | ソ メタ認知 | タ オノマトペ |
| チ 長恨歌  | ツ 日本型自然主義の確立       | テ 聊齋志異 | ト 御伽草子  |

〔解答例〕

ア 平仄 漢字の中古音を四声（平声・上声・去声・入声）に従って、大きく平声と仄声（上声・去声・入声）に分けたもの。漢詩、とりわけ近体詩（絶句、律詩）を作成する上で重要な発音上のルール（二四不同、二六対、押韻）となる。一般的に、平声は○、仄声は●で表記される。

イ 言葉によるもの見方・考え方 国語科の目標では、言葉による見方・考え方を働かせることが掲げられている。これは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることである。

ウ 抄物 室町時代から江戸時代にかけて、京都五山の禅僧や博士家の人々によって書かれた注釈書の一種。漢籍や仏典を講義する際に準備された、講師側の手控え。或いは、受講者の側で講義内容を筆録した、聞書。

エ 古事記 伝えられていた「帝紀」と「旧辞」の誤りを改め、稗田阿礼に読み習わせ、太安万侶が撰録し、七二二年に献上した日本最古の歴史書。上巻は神話、中・下巻は神武天皇から推古天皇まで古代の記事を収め、同時代の歴史書『日本書紀』と内容が多く重なる。

オ 接辞 語構成要素の一つ。「お茶」、「か弱い」など、上接するタイプ（接頭語）と「涙ぐむ」「汗ばむ」のように下接するタイプ（接尾語）とがある。単独で語を構成することはできず、語基に結合することで新たな語（派生語）を作ることができる。

令和六年度 東京学芸大学大学院教育学研究科 入学試験

科目	国語科教育
対象	国語教育サブプログラム

試験区分				
特別選抜	外国人留学生等選抜	派遣教員選抜	現職教員選抜	一般選抜
×	○	×	○	○

受験番号					

カ 日本近代における言文一致

従来は、尾崎紅葉の「である」体、山田美妙の「です」体、二葉亭四迷の「だ」体などの実践に示されるように、文学者たちがリードしてきたと考えられていたが、最近では、新聞や雑誌、教科書などにおける言文一致が与えた影響も大きかったと考えることが一般的になっており、また正岡子規や漱石における写生文の実践などにも注目が集まっている。

キ 方丈記

一二二二年に鴨長明（連胤）が著した随筆。長明が世俗の騒動に倦み、出家して日野山に方丈庵を結び、そこでの生活と世の無常について記したもの。若い頃に経験した五大災厄や、仏道修行に専心できず愛執にとらわれる自己への問答も含む。

ク 大村はま

戦後、東京の新制中学校で国語科の単元授業開発で活躍した。学習者の目線に立ち、言葉を育み、目標に照らし、生徒の個の実態を大切に記した。言語生活から出発した探究型の単元授業づくりで貢献した。また、作文教育でも多くの著作を残している。

ケ 伊勢物語

和歌にまつわる短い話を百二十数編連ねた歌物語。主人公は在原業平をモデルとする。作者も成立年代も未詳であるが、実際に業平が関与した章段も存在すると考えられている。後世の和歌、紀行文、物語や歌枕の生成に絶大な影響を与えた。

コ 近代文学史における「大家の復活」

昭和10年前後に、その当時既に「大家」となっていた作家たちが、代表作となるような作品を発表することが集中したことがあった。具体的には、島崎藤村「夜明け前」、徳田秋声「縮図」、谷崎潤一郎「春琴抄」、永井荷風「溼東奇譚」などが発表され注目を集めた。プロレタリアとモダニズムの対立の中、新たな形式が確立しえない状況の中でおこった現象であるとも考えられる。

サ 宣命書

宣命や祝詞などに用いられた文章表記の形式の一つ。一般に、体言や用言の語幹部分を大字表記で、用言の活用語尾、及び助詞・助動詞などの付属語部分を小字表記で記すといった形式が採られた。

シ 楽府

漢詩の型式のひとつで、古体詩の一種。漢の時代、武帝が採集した各地の民謡に起源を持ち、後の文人がこれにならって歌詩を制作した。南北朝時代の動乱によって楽曲のほとんどは散逸し、唐代以降は単なる古体詩として作られるようになった。北宋の郭茂倩『樂府詩集』によって歴代の楽府の歌詩がまとめられている。

ス 論理国語

平成三十年度からの高等学校の選択科目である。「思考力・判断力・表現力等」の創造的・論理的思考の側面の力を育成する。実社会や学術的な学習に関する事柄について、根拠や論拠を吟味し、論理的展開を批判的に読み、論理的な文章や実用的な文章を書き、課題を自ら設定して探究する。

科目	国語科教育
対象	国語教育サブプログラム

試験区分				
特別選抜	外国人留学生等選抜	派遣教員選抜	現職教員選抜	一般選抜
×	○	×	○	○

受験番号					

セ 近現代詩のレトリック

朔太郎以降、言文一致した口語自由詩が一般的になったが、それ故に、文語、あるいは、定型か自由かという選択そのものもある種の技巧となった。そこに、従来の音数律や韻の意識、また西洋の影響をうけた象徴主義的技巧なども導入されて、日本近代詩の技巧はより豊かになっていった。大正後期になると、前衛的な手法も導入され、アヴァンギャルドやモダニズム詩の試みもなされるようになった。

ソ メタ認知

自分自身の認知的活動に関する認知をいう。国語教育においては、メタ言語能力の育成や、読むことにおけるメタ認知的経験や知識の重要性、話すこと・聞くことにおけるメタ認知能力の育成に関する研究がある。

タ オノマトペ

狭義には、ものの音、動物の声などを模した擬声語を指す。広義には、状態を表す擬態語を含めて物の様子を表す言葉。

チ 長恨歌

唐代の詩人・白居易の長編恋愛詩。身分の貴賤を問わず幅広く流行し、日本にも大きな影響を与えた。『白氏文集』では「感傷詩」に分類され、陳鴻の「長恨歌伝」と共に収録される。全編を通して玄宗皇帝と楊貴妃の恋愛物語が描写されているが、その主題については、諷諭説や愛情説などがあり、今日もなお根深い議論がある。

ツ 日本型自然主義の確立

一九〇六年に島崎藤村が「破戒」を書き、これは日本のゾライズム受容の最高傑作となるべきものであったが、翌年に発表された田山花袋の「蒲団」にある個人の私的体験をカミングアウトするという形式の文学を、より真剣にリアリズムに立ち向かったものとした島崎藤村が自らの作風を私小説風の体験告白にシフトさせてしまい、以後日本の自然主義は、体験告白を重視する閉鎖的な独特の様相を示すようになった。

テ 聊齋志異

清の文人・蒲松齡の短編怪異小説集。「聊齋」は蒲松齡の号。六朝時代に盛行した志怪小説への回帰を目指し、当時流行していた白話（口語）ではなく、文言（文語）で書かれている。蒲松齡の没後に刊行されて流行した。日本でも江戸後期に伝わって流行し、明治以降、芥川龍之介、佐藤春夫、太宰治など多くの作家が翻訳・翻案を行った。

ト 御伽草子

南北朝時代から室町時代にかけて生まれた短編物語の総称。「室町時代物語」とも言う。『一寸法師』『鉢かづき』『木幡狐』など内容は様々だが、概して話の筋は単純で、典型的な表現が多く、教訓性・啓蒙性が強い。庶民へと開いた新しい文芸領域である。

科目	国語科教育	対象	国語教育サブプログラム
----	-------	----	-------------

試験区分				
特別選抜	外国人留学生等選抜	派遣教員選抜	現職教員選抜	一般選抜
×	○	×	○	○

受験番号						

問三

現在の国語科の授業では、「観点別学習状況の評価」として「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点から、評価規準を作成し評価を実施することになっている。このうち、「主体的に学習に取り組む態度」とは、国語科の授業においてどのような学習者の姿を評価するものであると考えるか。また、実際の国語科の授業で「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行う際に、どのような工夫や留意点が考えられるか。教育実習や教育現場での経験から、具体的に論じよ。（解答欄は次ページ）

〈解答のポイント〉

国立教育政策研究所の『指導と評価の一体化』のための学習評価の参考資料』等を踏まえ、「主体的に学習に取り組む態度」として、粘り強く取り組もうとする側面や学習を調整しようとする側面について説明できること。また、それらの考え方に基つき、国語科の授業場面に即して、評価方法の工夫や評価に際しての留意点について、具体的かつ論理的に述べること。